



ICTニュース

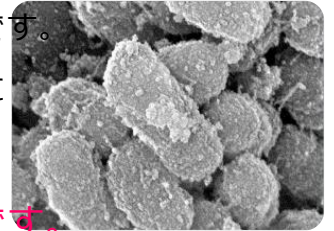
残暑お見舞い
申し上げます

Infection Control Team News VOL.4 2019年 8月号 発行責任者
米の山病院感染対策委員会



増えてきてます！百日咳

百日咳は咳を主とした急性気道感染症で、百日咳菌という特殊な細菌が原因です。終生免疫（一度感染したらかからない）の感染症ではないため、風邪のように何度も百日咳にかかる可能性があります。



おもな症状は…その名のとおり咳などの症状が長引くことが特徴です。

潜伏期：5～10日程度

カタル期：約2～3週間、軽い風邪症状が徐々に強くなる

痙咳期：約2～3週間、激しく咳きこみ最後に「ヒューツ」と息を吸い込むような咳発作を伴う。なかにはひどい咳のために顔が真っ赤になったり、嘔吐を伴い無呼吸発作を引き起こすことがあります。

成人がかかっても重症化することはありませんが6か月未満の乳児が百日咳にかかると呼吸器不全など命にかかわることがあるので大変危険です。

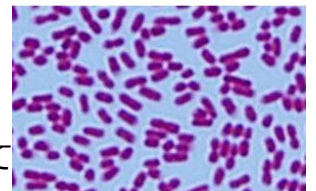
百日咳は感染力がとても強いためワクチン未接種の同居家族に感染させる可能性は80～90%と高いです。

乳児を持つ家族は、自身が感染しないよう、また乳児に感染させないよう感染対策が必要です。

“オフィシャル用語”は
肺炎桿菌

クレブシエラ *Klebsiella pneumoniae*

クレブシエラは肺炎の原因菌ですが、腹部感染症も起こせば、尿路感染の原因にもなります。菌は顕微鏡で見ると大きめのグラム陰性桿菌で、腸内細菌群の一種。周りに大きな莢膜（きょうまく）が見えます。



Klebsiella pneumoniaeのグラム染色

この莢膜の比重が重いため、クレブシエラによる肺炎の喀痰はネチャネチャしてずっしり重い感じがします。

もともと免疫抑制者の感染症の原因として有名でしたが、近年では特に院内感染の原因として注目されるようになりました。

「K1」というタイプの莢膜は特に粘度が高く
培地でも糸を引くほど！
病原性が高く、膿瘍などを起こしやすい。



★読まれた方はサインをして下さい。未読者がががないように声掛けをお願いします★

--	--	--	--	--	--

